

府民の森ほしだ園地探鳥会

(毎月第4土曜日 両園地通算第263回)

令和5(2023)年1月28日(土) 9:30~15:00頃

日本野鳥の会大阪支部 友田武・神戸徹・近藤輝男・沖光二、平軍二(090-6901-1425)

今週10年ぶりの冷え込みの日がありました。今日も冷たい北風が吹くと思いますが、ポケットカイロと、出てきた鳥で心も温め、楽しんでくださいますように。

I 交野の鳥シリーズ(112) アオゲラ

I-1 アオゲラ 今月は交野バード 1/9 に公開された河村壽氏のアオゲラにしました。

アオゲラは体長29cm、市街地の公園で普通に見られる黒褐色のコゲラ(体長15cm)より大きい緑色のキツツキである。留鳥として本州から九州に分布しているものの、日本にしかない固有種である。北海道ではよく似ていて脇に黒斑のないヤマゲラが住んでおり、アオゲラはいない。

大阪近郊では北摂山地・金剛生駒山地・和泉山脈などの山地で周年生息しており、交野市でも友田武氏のデータから、一年中確認される留鳥である(図②③)。



図①アオゲラ(河村壽氏)20230109



↑図② 交野市のアオゲラ(友田武氏) 図③ ↑

アオゲラは林の中にも、「ピーーピーー」「キョッ キョッ」と大きな鳴き声を出すので、遠くて姿は見えなくても声で知ることが多い。友田氏の月別グラフ(図③)で4~6月頃に観察日数が多いのは、この時期、ドラミングを含め鳴き声が多いためと思われる。

I-2 アオゲラ(キツツキ類)の特徴

①キツツキの足指は前後2本ずつ キツツキが幹を垂直に上がる姿や、途中で止まってコツコツ幹をつついてる所を良く見ます。こんな行動ができるのは小鳥の指は「前3本・後1本」なのに、キツツキの指は「前2本・後2本」で、前後の指で幹の隙間を挟み、更に尾羽を強く幹に押し付け3点で体を支えているためです。右写真 20130211(河村壽氏)では、左足指が前後に開いて、コナラの幹をしっかりとつかんでおり、尾羽も幹に押し付け、3点で体を支えていることがわかります。

②繁殖期のドラミング さえずりを持っていないキツツキは、繁殖期になると縄張りをアピールするために、枯れ木を高速でつついて「たららららららら…」と音を出す「ドラミング」を行います。バードリサーチがドラミングを調査した結果は下記の通りである。

アオゲラ 長さ:1.1秒 回数:24回 間隔:0.045秒
コゲラ 長さ:0.3秒(最短) 回数:10回(最小) 間隔:0.03秒(最速)



1 秒間に 2 回も木をつつくとのことで、脳震盪を起こさないかと心配になる行動である。

③アオゲラの主食は蟻(アリ)? ヨーロッパアオゲラでは1日にアリ 2000 匹を食べたという記録があるとのこと、日本のアオゲラも、ヒナに与える餌はほとんどアリとのこと、木の幹でも主としてアリを探していると思われる。このようなキツツキも木の実を食べに来ることがあり、ヌルデ・ハゼノキなどウルシの木の実を食べに、アオゲラ・コゲラなどが来ていたのを見たことがある。

④アオゲラの名前 見た通り、背が緑色のキツツキなのでアオゲラとなった。キツツキをケラと呼ぶのは、寺の軒や柱をつつくため「寺つつき」→「けらつつき」→「けら」に変化したとのこと、また「ケレケレ」の声からケラになったという説もある。

一方学名 *Picus awokera* は、アオゲラが日本にしかいないため、和名がそのまま学名後半(種小名)につけられている。また、学名前半(属名)「ピクス」は、ローマ神話の田園の神の名で、サトルヌスの息子ピクスは魔女キルケーの求愛を退けたためキツツキに姿を変えられてしまったという話があるとのこと。

- (参考文献追記) ①真木・大西 日本の野鳥 590 (平凡社)2000 年
②大阪鳥類目録 2016 日本野鳥の会大阪支部 2017 年
③国松俊英 名前といわれ 野山の鳥 (偕成社)1995 年
④ピッキオ 鳥のおもしろ私生活 (主婦と生活社)1997 年
⑤その他 インターネット(google 検索など)

I-3. 「アオゲラ」全国鳥類繁殖分布調査報告 (日本の鳥の今を描こう) 2016-2021 年 2021 年 10 月 24 日 発行:鳥類繁殖分布調査会

アオゲラ 分類:キツツキ目キツツキ科 Japanese Green Woodpecker *Picus awokera*

全長:27.6-29.7cm 翼長:140-145mm ふ蹠長:25-30mm 体重:103-138g

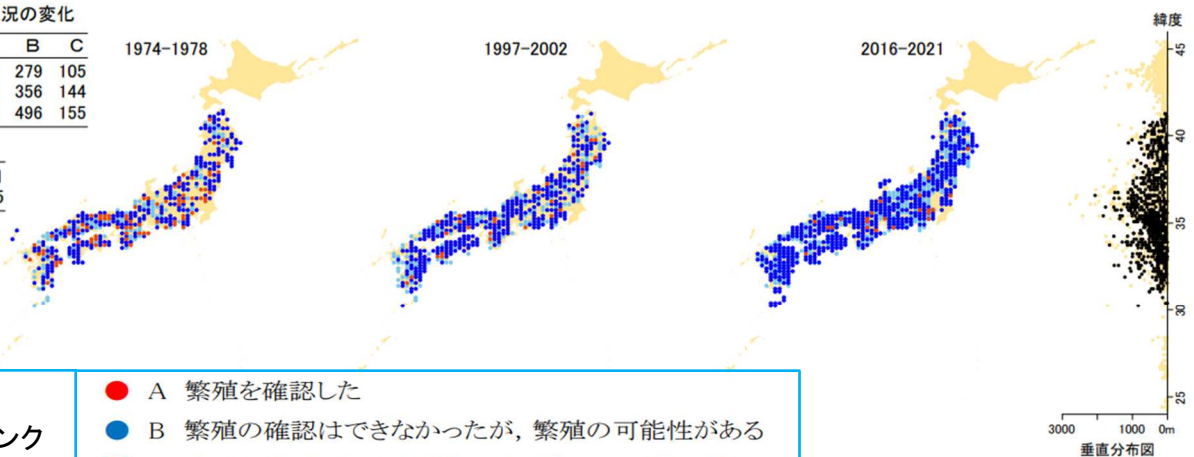
環境省レッドリスト: ー

各年代の分布状況の変化

メッシュ数	A	B	C
1974-1978	79	279	105
1997-2002	28	356	144
2016-2021	23	496	155

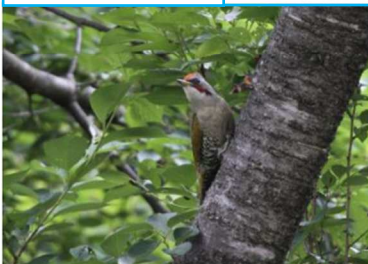
調査地数

1997-2002	531
2016-2021	715



メッシュ数
A,B,C ランク
区分

- A 繁殖を確認した
- B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- C 生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない



本州以南の平野部から山地に留鳥として分布する。過去 3 回の調査を通じて記録メッシュが増加傾向にあり、特に東北地方の分布拡大や、都市部での小規模な緑地への分布拡大が顕著である。1990 年代と 2010 年代でほぼ同じコースを調査できた現地調査の記録を見ても、アオゲラが記録できた地点数は、531 地点から 715 地点へと増加していた。



上記の結果で、A ランクのメッシュ数は減少しているものの、B ランクが多くなっており、アオゲラ繁殖数が全国的(除く北海道)に増大していることがわかる。

Ⅱ 先々月・先月の両園地の探鳥会結果

・2022/11/26 ほしだ園地 私市駅から星の里いわふねまでの住宅地内で、ツグミ・シメ・ビンズイ・ジョウビタキと到来したばかりの冬鳥を確認、幸先良いスタートとなった。しかし天野川沿い山地の遊歩道に入ると鳥の声・姿もないままであった。幸い、ほしだ園地の森林鉄道風歩道橋から見えるハヤブサ休憩場所となっている送電鉄塔には、雌雄のハヤブサ2羽が観察された。



ピトンの小屋前の哮が峰(たけるがみね)岩壁のハヤブサ営巣個所、2019年までハヤブサが子育てをしていたが、ここ3年は繁殖しなかったため大阪府に対し雑木伐採を申し込んでいたが、すっきり刈り取られていたので、来年2月になると営巣を始めることを期待している。

午後からお天気になったこともあり、あちこちでルリビタキの声が聞かれたが、姿は確認できなかった。カラの混群に会えず、エナガ・シジュウカラなどは単発的、カモ・サギ・カワセミなども姿を見せず、鳥は少ないまま終わった。

↑ハヤブサ (河村壽氏)20221126

・2022/12/24くろんど園地 スタート直後からヒヨドリの声はするものの他の鳥は出ないままだったが、山地へ入ってようやくルリビタキが姿を見せた。園地に入って「すいれん池」は上流から流入した土砂で埋まり草はらとなっていたが、草刈りされてすっきりしていた所に、**カシラダカ・ミヤマホオジロ・アオジ・ルリビタキの4種**が池際の灌木と行き来し、代わるがわるに姿を見せてくれた。



「園路」に入ってから貯水ダム近くで、オオバヤシヤブシに来るはずのマヒワを探したが見つからずカワラヒワのみ、管理棟の手前でムラサキシキブの実に来ていた**ウソ**の群は一部の人のみ、が残念だった。しかし「管理棟広場」での昼食時に**ジョウビタキ・イカル**は

ノスリ(平)

しっかりと見え、帰り道の「傍示の里」では枯葉が落ちた木に止まる**ノスリ**を確認、移動したものの100mほどのカキノキに止まるというサービスをうけた。トータル種数は22種にとどまったものの、昨日より寒さはマシになり楽しく探鳥会を終えることができた。

Ⅲ-1 今日のほしだ園地探鳥会

ほしだ園地のシンボル鳥「ハヤブサ」、今日はまだ繁殖の兆候は見られないと思いますが、営巣個所の雑木が伐採されたので、今年は3年ぶりに繁殖が予想されます。

今日も**400m離れた送電柱**から営巣個所を見張っている筈、もうすぐ繁殖行動に入ると思われます。

Ⅲ-2 次回探鳥会 2023/2/25 くろんど園地 9:30~15:00頃

12月探鳥会では、ミヤマホオジロ・カシラダカなどホオジロ科、ルリビタキ・ジョウビタキなどヒタキ科の鳥、そしてイカル・ノスリなどが楽しめた。次回2月は、12月に一部の人しか見られなかったウソ、全くでなかったアトリ・マヒワのアトリ科の鳥を期待したいと思っています。

今日と同様、大阪支部 HP でお申し込みくださるよう、お待ちしております。

イカル(沖光二氏)→



IV 探鳥会記録 (くろんど園地・ほしだ園地)

科名	種名	年月日 回数 No	2021		2022			2023	
			11 27 ほし だ	12 25 くろ んど	10 22 くろ んど	11 26 ほし だ	12 24 くろ んど	1 28 ほし だ	2 25 くろ んど
			254	255	260	261	262	263	264
キジ	ヤマドリ	4							
キジ	キジ	5							
カモ	ハクチョウSP	19							
カモ	オシドリ	24							
カモ	ヨシガモ	27							
カモ	ヒドリガモ	28							
カモ	マガモ	30							
カモ	カルガモ	32							
カモ	ハシビロガモ	34							
カモ	コガモ	38			2				
カモ	ホシハジロ	42							
カイツブリ	カイツブリ	62							
ハト	キジバト	74	1	2	2	4	2		
ハト	アオバト	78							
コウノトリ	コウノトリ	119							
ウ	カワウ	127							
サキ	ゴイサギ	139							
サキ	ササゴイ	141							
サキ	アオサギ	144							
サキ	ダイサギ	146							
サキ	コサギ	148							
クイナ	バン	174							
クイナ	オオバン	175							
カッコウ	ホトギス	185							
カッコウ	ツツドリ	187							
アマツバメ	アマツバメ	192							
アマツバメ	ヒメアマツバメ	193							
チドリ	ケリ	195							
チドリ	コチドリ	203							
シギ	イソシギ	244							
ミサゴ	ミサゴ	339							
タカ	ハチクマ	340							
タカ	トビ	342			1				
タカ	ツミ	354							
タカ	ハイタカ	355		1					
タカ	オオタカ	356	1						
タカ	サシバ	357							
タカ	ノスリ	358			2	1			
カワセミ	カワセミ	383							
キツキ	コゲラ	390	2	4	5	1			
キツキ	アカゲラ	393							
キツキ	アオゲラ	397							
ハヤブサ	チョウゲンボウ	401							
ハヤブサ	ハヤブサ	407	1			2			
サンショウクイ	サンショウクイ	412							
カササギヒタキ	サンコウチョウ	418							
モズ	モズ	420			2	1	3		
カラス	カケス	427							
カラス	ハシボソガラス	435		2		5			
カラス	ハシブトガラス	436	10	9	3	9	8		
カラス	キクイタダキ	438							
シジュウカラ	コガラ	441							
シジュウカラ	ヤマガラ	442	5		4	1	1		
シジュウカラ	ヒガラ	443							
シジュウカラ	シジュウカラ	445	1	1	2	1	2		
ツバメ	ツバメ	457							
ツバメ	コシアカツバメ	459							
ツバメ	イワツバメ	461							
ヒヨドリ	ヒヨドリ	463	10	37	23	31	42		
ウグイス	ウグイス	464	2	1	4	2	2		

科名	種名	年月日 回数 No	2021		2022			2023	
			11 27 ほし だ	12 25 くろ んど	10 22 くろ んど	11 26 ほし だ	12 24 くろ んど	1 28 ほし だ	2 25 くろ んど
			254	255	260	261	262	263	264
ウグイス	ヤブサメ	465							
エナガ	エナガ	466	1	5	15	1	8		
ムクイ	オオムクイ	476							
ムクイ	メボソムクイ	477							
ムクイ	エゾムクイ	479							
ムクイ	センダイムクイ	480							
メジロ	メジロ	485	16	10	30	2	15		
ヨシキリ	オオヨシキリ	492							
レンジャク	キレンジャク	500							
レンジャク	ヒレンジャク	501							
ミソサザイ	ミソサザイ	504							
ムクドリ	ムクドリ	506				2			
ムクドリ	コムクドリ	508							
カワガラス	カワガラス	512							
ヒタキ	トラツグミ	514							
ヒタキ	マミチャジナイ	520							
ヒタキ	シロハラ	521	1	2			2		
ヒタキ	アカハラ	522							
ヒタキ	ツグミ	525				4			
ヒタキ	コマドリ	530							
ヒタキ	ルリビタキ	536	4			4	6		
ヒタキ	ジョウビタキ	540	5	2		4	3		
ヒタキ	ノビタキ	542							
ヒタキ	イソヒヨドリ	549							
ヒタキ	エゾビタキ	552			1				
ヒタキ	サメビタキ	553							
ヒタキ	コサメビタキ	554			1				
ヒタキ	キビタキ	558			5				
ヒタキ	ムギマキ	559			3				
ヒタキ	オオルリ	561							
イワヒバリ	カヤクグリ	566							
スズメ	ニューナイスズメ	568							
スズメ	スズメ	569	1			11			
セキレイ	キセキレイ	573	1	1	1	2	1		
セキレイ	ハクセキレイ	574	3			8			
セキレイ	セグロセキレイ	575	5			8			
セキレイ	ビンズイ	580				5			
アトリ	アトリ	586			5				
アトリ	カワラヒワ	587		2		6	5		
アトリ	マヒワ	588							
アトリ	ベニマシコ	592							
アトリ	ウソ	599					4		
アトリ	シメ	600				1			
アトリ	イカル	602					3		
ホオジロ	ホオジロ	610					3		
ホオジロ	カシラダカ	617					2		
ホオジロ	ミヤマホオジロ	618					3		
ホオジロ	アオジ	624		7			4		
ホオジロ	クロジ	625		2					
キジ	コジュケイ								
ハト	カワラハト(トハト)			5		2			
チメドリ	ソウシチョウ			1	7				
	ムクイSP								
	タカSP								
	マルガモ		1						
観察種数合計			19	18	20	23	22		
個体数			71	94	118	116	121		
天候			晴時々雨	晴時々曇	晴	晴	晴		
参加者			11	11	16	15	11		